

I 学校の概要

小学校外国語教育推進モデル校事業 小豆島町立安田小学校

◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
1学級 16名	1学級 18名	1学級 22名	1学級 16名	1学級 22名	1学級 30名	3学級 10名	9学級 134名

○教員数 16名

◆学校の特徴

本校は、学校教育目標を受け、「生活づくり」「学びづくり」「仲間づくり」に取り組み、チャレンジ精神旺盛な知・徳・体の調和のとれた児童の育成をめざしている。昨年度からは、「学びづくり」において英語学習の充実と英語教育推進のための環境整備に重点を置いて研究を進めてきた。そして、昨年度より進めている町内3校の合同研究により、校内の英語環境を少しずつ整備し、低学年から英語を目にしたり耳にしたりする機会を増やす取り組みを行ってきている。

校区には外国人観光客が増え、海外の芸術家やアーティストが多く滞在しており、地域行事や日々の暮らしの中で、外国人と外国語を使ってコミュニケーションを図ったり、異文化にふれたりできる好環境がある。

II 研究主題等

研究主題

**英語に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～ 単元構想の工夫と英語環境の整備を通して ～**

◆研究主題設定の理由

現代社会は、異なる言語や文化をもつ人々との交流が増えグローバル化が加速している。実際、外国にルーツのある人たちと一緒に働いたり、地域社会で一緒に過ごしたりする中で英語を使ってコミュニケーションをとる場面も増えてきた。

各分野ではコンピュータが導入されるなど、大きく様変わりし、AI化も急速に進歩してきた。また翻訳機を用いれば簡単に英語を日本語に訳すこともでき、便利な世の中になってきた。しかし、そう感じる一方で、いくらAI化が進歩し、翻訳機が高性能になったとしても、異文化を理解し主体的に交流を図る態度が備わっていなければ、真の交流は生まれまいだろう。児童たちがこれからの国際社会を生き抜いていくためには、英語を介して、相手の意図することを正確に理解し、その言語でしか表現できない意味やニュアンスを感じ取りながら、コミュニケーションを図る力の獲得が必須条件であると考えます。

本校の児童は、外国語に関する興味・関心が高く、ALTとの学習に意欲的に取り組んでおり、中・高学年は、毎週行われる外国語支援員や外国語講師との授業を楽しみにしている。しかし、地域では外国人観光客や海外の芸術家、アーティストと外国語を使ってコミュニケーションを図ったり、異文化にふれたりしているものの、英語に親しむことに関しての個人差は大きい。普段の生活においても学んだ英語を使ってやりとりを楽しもうとする児童がいる一方で、恥ずかしさと慣れの不足から思うように楽しめない児童もいる。

そこで本校では、単元構想の工夫と英語環境の整備に重点を置き、「英語で楽しくコミュニケーションを図ったり、簡単な語句や基本的な表現を使いながら日常的に表現したりできる児童」の育成をめざしていく。そして、コミュニケーションを図る際には、単に語彙や文法の知識を身に付けるだけでなく、その言葉の背景にある文化や社会を理解するとともに、コミュニケーションの目的や場面などを考慮して自分の考えを互いに伝え合う態度を育てていきたい。

◆研究内容及び方法

単元構想の工夫のために

- ① 必然性のある活動の設定
- ② 教科書の効果的活用
- ③ 指導過程のスタイルの確立
- ④ 既習を生かして即興的にコミュニケーションをとろうとする態度の育成
- ⑤ 学びを実感できる振り返りの工夫
- ⑥ 発音に自信を付けるアルファベットフォニックスの共通実践
- ⑦ モジュール学習の指導計画と実践

英語環境の整備のために

- ① English day の計画と実施
- ② クラスルームイングリッシュの日常化
- ③ 主体的に英語を学習できるコーナーの整備
- ④ ALT と主体的に関わることでできる学習の場の設定
- ⑤ 校内掲示・教材整備・英語のCDや書籍・タブレット機器の整備

教師の授業力向上のために

- ① 研究授業・事前研修としての模擬授業の実施
- ② 外部講師を招いての研修
- ③ 町内3小学校との連携(合同現教)
- ④ 教員の英語力向上のための研修

III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (10の指標) 授業の内容がどの程度分かりますか。

指標 「①よく分かる+②だいたい分かる」の合計

5月調査
63.5%

目標値
85.0%

11月調査
75.8%

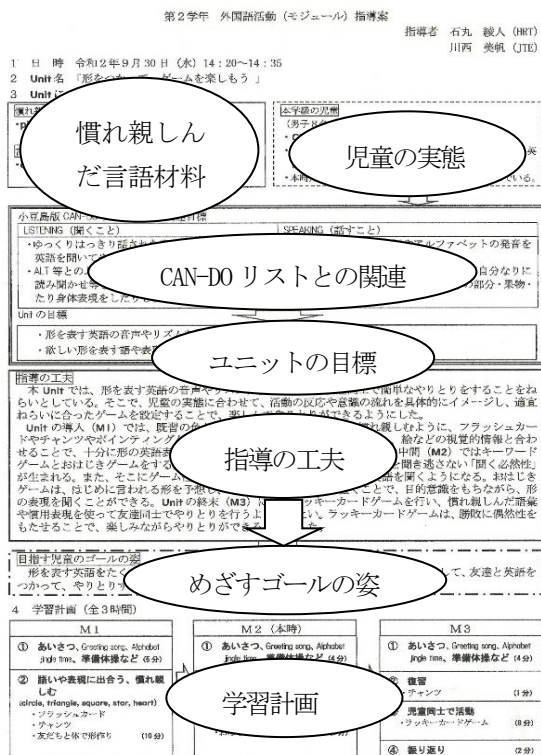
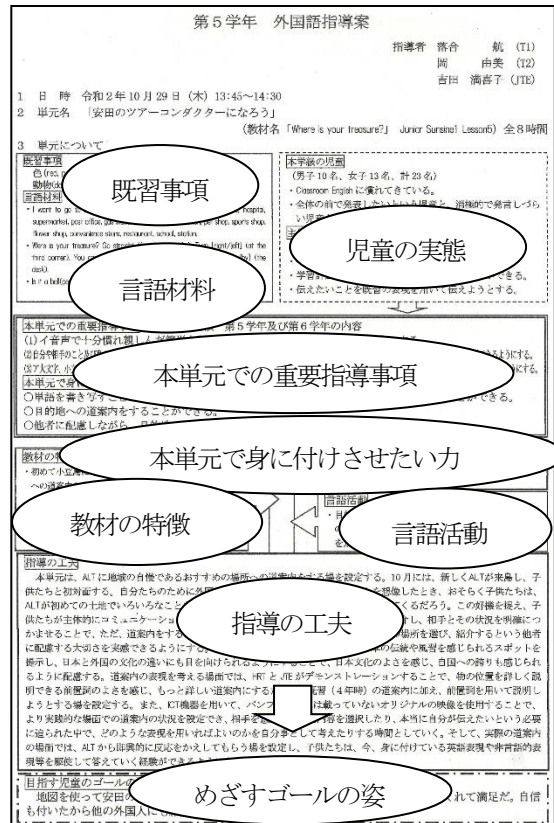
指標の達成に向けた実践

1 単元構想の工夫

(1) 身に付けさせたい力を明確にした単元構想

授業には、身に付けさせたい力が明確にあり、ねらいが達成されることを求められる。しかし、一定水準の英語力や経験を有する教員もいれば、英語力の向上を図る必要に迫られている教員もいる。そこで、経験や英語力に左右されることなく、全教員が同じように授業が実施できるように、配慮すべき諸事項が分かるシートを作成することにした(図①②)。シートは、右に示すように、「めざすゴールの姿」を思い描きながら「本学級の児童の実態」、本単元に関わる「既習事項」、本単元で扱う「言語材料(単語や構文)」が一目で把握でき、学習指導要領を踏まえて、身に付けさせたい力を明確にできるものにした。そして扱う教材の特徴を捉え、児童が目的をもって学ぶための「言語活動」は何か、どのように指導し力を付けるのかという指導の工夫を明記するようにした。

【 図 ①：単元化を図るシート (外国語)】



モジュール授業のシートは、ユニットにおける「めざすゴールの姿」を思い描きながら、「本学級の児童の実態」、本ユニットに関わる「慣れ親しんだ言語材料」、本ユニットで扱う「言語材料(単語や構文)」が把握でき、小豆島版 CAN-DO リストの学年到達目標との関連や、身に付けさせたい力を明確にできるものにした。

モジュール学習の活動は、ゲームが多いが、題材によっては、英語を使ってやりとりをしながら作品を仕上げたり、あるストーリー性のある活動に取り組んだりする場合もある。その題材による活動の工夫を「指導の工夫」や「学習計画」で示した。

【 図 ②：単元化を図るシート (モジュール授業)】

一目で単元に関する既習と新出が明確になり、実態からめざすゴールを見通せることで、授業者は、ねらいを達成するために必要な活動や指導の工夫が考えられ、授業が精選されてきたと考える。

2 (10の指標) 友だちと英語で話すのは好きですか。

指標 「①好き+②まあまあ好き」の合計



(2) 必然性のある課題や活動の設定

児童が強い動機をもてる必然性のある課題とやりとりを繰り返す必然性がある活動を設定し、外国語活動及び外国語では、英語へ慣れ親しむことを重ね、高学年では技能の定着を図った。

だれに

英語を使って

何のために

考えや気持ちを伝え合う

課題

強い動機をもてる必然性

In put 機会 増

何度もやりとりを繰り返す必然

活動 1

活動 2

活動 3

伝わった!

言えた! めざすゴール

単元の終わりに行うコミュニケーション

You can eat soy sauce good with anything.

Oh! What's your favorite food?

町の自慢の醤油を知ってもらいたい。伝わっているか確かめながら話そう。

「シンシアさんに私たちの「小豆島 Love」を伝えよう」(6年)

小豆島について伝えたい。

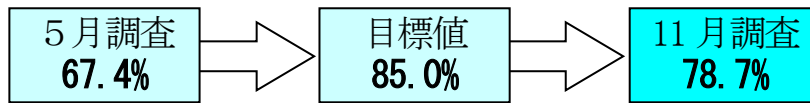
シンシアさんに役立つ情報を伝えて喜ばせたい。

導入でシンシアさんの生まれや生活環境を詳しく紹介してもらったり、自分なりに調べたりして、シンシアさんの国の文化について理解した後、児童が郷土の自慢を紹介する活動に入ったので、児童の意識がスムーズに流れ、「自分たちも!」という思いにつながり、課題の解決に向かう動機付けとなった。

新しい表現にふれるとき、その表現が実際の生活の中でどのように使われているかを検討し、場面設定を大切に授業を行ってきた。そのことが、授業をはなれた実際の生活場面でのやりとりにつながり、英語を使って表現できた喜びや達成感につながっていると感じている。目標値に達するよう、授業と生活の連携をさらに図って行く必要がある。

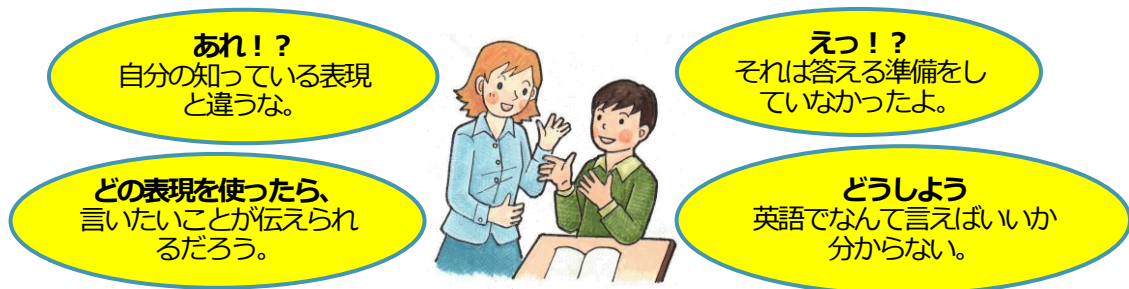
3 (10の指標) 自分の英語の力は付いてきていると思いますか。

指標 「①思う+②まあまあ思う」の合計



(3) 即興性を必要とする活動の設定

コミュニケーション能力を高める過程で知識を得ていくのは、「気付き」を通してである。そこで、具体的な場面で実際に語句や表現が使用される中で、児童自らの気付きが生まれる場を設定した。



① 想定外の反応や質問が返ってくる場の設定

何とか答えたいという児童の内なる思いから、自然と、慣れ親しんだ表現や身振りで応答しようと努力する姿勢が見られた。

「Do you have○○?」を使えば良さそうだ。

「No I don't.」と言われたぞ…。なんて言えばいいのかな?



【4年 My special pizza を作ろう】

put on your mask.
ear...



【1年 体をつかおう】

② 生活でよくあるやりとりの場面設定

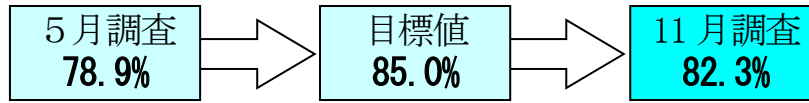
楽しいやりとりを見たり、教師の指示に合わせて動いたりする中で、「耳はearと言うんだね。あれ?! earとears 一つと二つで変わるのだな。」と、つぶやきから気付きが生まれ自分の学びとなり、一人の気付きから、全体へと広げられた。

put on your mask. O.K. ears...ears.

「突然予想していない言葉が返ってくることもあったけれど、知っている言葉をつなげたり、ジェスチャーを付けたりすると何とかなって嬉しかった。」という振り返りにみられるように、初めから設定されている場面で決まった表現を練習するのではなく、自分の思いや相手、状況に応じて、児童が表現していくことが、児童の「分かった!」「話せた!」につながってきていると考える。

4 (10の指標) 英語が聞き取れるようになってきましたか。

指標 「①なってきた+②まあまあなってきた」の合計



(4) モジュール学習の指導計画と実践

① 指導計画

設定時間	時間	ユニット数	題材選定	教員
朝の活動	15分間×3 1ユニット	11ユニット ※1ヶ月で1ユニット	生活に身近で3・4年の学習につなげる	HRT(T1・T2)・JTE・ALT
授業者が代わっても同じ取組が可能となるためのモジュール指導過程の視覚化				
<p>低学年 英語モジュール授業の指導過程</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事前</p> <p>English day の朝活と連動して、前に慣れ親しんだ読みや表現を振り返る絵本の読み聞かせや歌、ゲームを行う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>安田小モジュールの特徴</p> <p>☆3・4年外国語活動につなぐための11ユニット。</p> <p>☆English day と関連を図り効果 Up.</p> <p>☆JTEによる年間等して計画的に進める Alphabet jingle と準備体操。</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>授業中</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>M1</p> <p>あいさつ Alphabet jingle 準備体操など</p> <p>歌やチャンツ、ゲームなどで語彙や表現に親しむ。</p> <p>活動2</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>M2</p> <p>あいさつ Alphabet jingle 準備体操など</p> <p>復習 歌やチャンツなど</p> <p>指導者と児童でやりとりする。</p> <p>活動3</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>M3</p> <p>あいさつ Alphabet jingle 準備体操など</p> <p>復習 歌やチャンツなど</p> <p>児童だけ、または、児童同士でやりとりする。</p> <p>活動4</p> <p>振り返り</p> </div> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>事後</p> <p>○English day を中心に定期的に使う場を設定し自信を育てる。</p> <p>○日常的に扱う言葉や表現を用いて、英語に対する安心感を育てる。</p> </div>				
<p>担任の役割</p> <p>M1</p> <p>ICT教材やJTEの正しい発音を聞かせる。担任はテンポ良く、教材や音声と児童をうまく、楽しくつなぐ。</p> <p>M2</p> <p>復習までテンポ良く進め、「指導者⇄児童」でゲーム的な活動をする。英語を使って楽しく参加していることを褒める。</p> <p>M3</p> <p>自分たちだけで英語を使って活動できた、仲良く相手に分かるように言おうとしている、相手が言っていることをよく聞いているなど褒めて広げる。</p>				

活動1

JTEによるAlphabet jingleを年間通じて計画的に進めた。準備体操は、題材に応じてふさわしい内容をJTEと相談して取り組んだ。



活動2

2年生は1年生の学習を繰り返すが語彙を増やしたり、ゲームを変えたり、聞き慣れた表現を組み合わせたり、やりとりの時間を増やしたりと難易度を上げたことで、自分の成長も感じられていた。

活動3

ゲーム的な活動を通して、「聞く」「話す」活動を繰り返し楽しむ。その際の音声提示はJTEが担う。

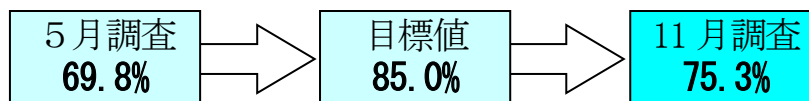


活動4 児童同士で英語を使って楽しくやりとりをすることで、「自信」や「安心感」を育てる。

英語を楽しみながら、繰り返し、目的をもって聞く活動をこれからも計画的に取り入れていきたい。

5 (児童質問紙) 英語の授業は好きですか。

指標 「①好き+②まあまあ好き」の合計



2 英語環境の整備

(1) 慣れ親しんだ英語を主体的に活用できる場づくり

① English Day (英語の日) の取り組み

英語の絵本や拡大提示資料等を用いて視覚聴覚ともに楽しく英語に慣れ親しめるようにしたり、簡単なゲームをしたりする。



② (朝の活動の様子)

簡単なゲーム集			
ゲーム名	指導者の指導や発話	児童の言葉	指導上の留意点 □準備物
スリーヒントゲーム	Let's start スリーヒント game. Listen carefully and think. If you know the answer, raise your hand. Hint one. Hint two. Hint three. What's this? That's right. / That's wrong. / Close.	It's _____.	□答えの掲示用カードがあればいい。
ポインティングゲーム	Let's start pointing game. Make groups of four or five.		□グループごとに絵のシート

【題材に合わせてゲームを選択でき、英語での指示の仕方も示したゲーム集】

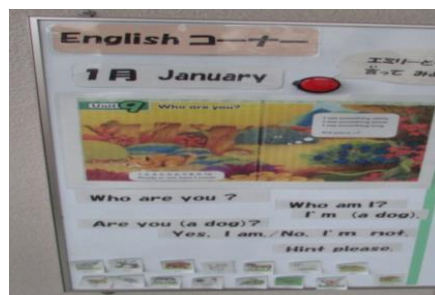
【朝の活動の2年生の様子】

(2) 主体的に英語が学べるコーナーの工夫

英語のDVDを自分で操作して昼休みに視聴できる。

教室前の英語コーナーで興味をもった英語を聞いている。

既習事項を掲示し、児童がカードを自由に動かしたり、ALTのネイティブな発音が聞けたりする。



【多目的教室の視聴コーナー】

【英語絵辞典・タッチペンの活用】

【各学年ホワイトボードの掲示】

英語をもっともっと身近に感じ、抵抗なく中学校で英語を学んでもらいたいという願いもあり、環境整備を行ってきた。週に1度のイングリッシュデイには大きな成果を感じている。自分から英語表現を知りたい聞きたいと感じたときに、すぐに手に取れる機器や用具の整備、目的に応じた英語活動ゲームの研修も進んできている。今後は、英語コーナーの工夫による活性化と、家庭への啓発による家庭での取り組みの広まりも必要であると考え。来年度も、継続して行う活動を学校全体として取り組んでいきたい。

IV 研究の成果と課題

【成果】

- ◇ ゴールの姿を児童と共有しながら単元を構想することで、毎時間どんな力が付いたか振り返りながら主体的に学習に取り組むことができた。
- ◇ 授業者ができるだけ英語で授業を進めることで、児童は英語を聞くことに抵抗がなくなり、自分にも分かる単語を手がかりに大体の内容を捉えようとするなどの聞く態度が育ってきた。
- ◇ 単元づくりと1単位時間づくりにおいては、上記で述べた活動を選び、配列していきながら、「聞く活動」から、「真似る活動」、「自ら発話する活動」へと段階的に組み立てる。その際、児童の興味・関心を低下させないように、活動の種類や活動形態、活動量等のバランスに配慮して、目指す資質・能力が育つような単元に構成していく必要性が明らかになった。
- ◇ 振り返りでは、振り返りシート（3校合同共通シート）を使って、自分だけでなく、友達のがんばりや言葉への気付きなどを振り返らせたことで、児童が自分自身の課題や成長に気付いた。教師はそれを受けて、児童の気付きや様子よかったことを価値付け、次時への意欲を高めることができた。
- ◇ 低学年の外国語学習をモジュール形式にしたことで、児童の発達段階に合っており、短時間で集中し、楽しんで英語に触れることができるようになった。
- ◇ クラスルームイングリッシュや掲示、読み聞かせ等、様々な場で英語に関する環境整備を進めたことで、教師も児童も生活の中に英語が浸透してきた。

【課題】

- ◇ 外国語活動・外国語科で、ゴールに向かう1単位時間を児童が主体となって進めていくには、まだまだ課題がある。児童の分かりたい、気持ちを伝えたいという思いをふくらませ、児童の願いが叶い、成就感や達成感が味わえるような言語活動を工夫する。
- ◇ クラスルームイングリッシュのさらなる浸透を目指して、全職員の共通理解の元での継続実践が必要である。
- ◇ 児童がより興味をもって、外国語に親しめるような環境整備を進め、児童が自ら関わられるような環境設定の工夫をしていきたい。
- ◇ ALTやJTEと児童が関われる時間が取りにくい。交流の時間を昼休みに設定したり、場を増やしたりして、もっと自由に積極的に関われる場を工夫したい。
- ◇ 「教科書」と「身に付けたい資質、能力」、「児童の思いや願い」をバランスよくつないだ授業づくりと授業展開するために、教科書の特徴を知った上で、取捨選択したり軽重を付けたりして使用していく。
- ◇ 教員の授業力向上や校内の環境の整備から、児童の英語への興味関心も高まり不安感も軽減され、よい変化が見られているものの、家庭への啓発が十分でなかったため、日常生活への広がりが十分とは言えない。公開授業や学級便り、学校便り、HP等で定期的に知らせる場を工夫する必要がある。

1 研究主題

英語に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～単元構想の工夫と英語環境の整備を通して～

2 研究の具体

簡単な語句や基本的な表現を使いながら、日常的にコミュニケーションを楽しむ子ども

単元構想の工夫

課題や活動に必然性をもたせる

私たちの町のわくわくする場所を入れて、よろこんでもらえる道案内にしよう。

池の中の種をせび見てほしいから、いさを測らねばならない。

だれに、英語を使って。

何のために、課題。

考えや気持ちを伝え合う。

強い動機をもてる必然性

課題意識の継続

少しでも必要表現を知り、やりとりをする。

何度かやりとりを繰り返す必然性

活動1、活動2、活動3

言えたよ!

伝わった!

〈めざすゴール〉 単元の終わりに行うコミュニケーション。


授業スタイルの確立

- Greetings
- Warm up
- Today's goal
- Activity
- Review
- Closing


※下線は学習内容や児童の意識の流れによって順序が入れ替わる場合がある。

授業づくり 必然性のある場の設定

【高学年外国語：スモールトークを有効に活用した授業】



【中学年外国語活動：即興的なやりとりの場を工夫した授業】



【低学年モジュール：基礎づくり】

M1	M2	M3
あいさつ 準備運動	あいさつ 準備運動	あいさつ 準備運動
歌や チャンツ	歌や チャンツ	歌や チャンツ
教師と 児童で	教師と 児童で	児童同士 で

振り返り

英語環境の整備

ALT 自作のコミュニケーションカード



各教室の日付や時間割



音声が入る辞典やタッチカード



多目的室の英語 DVD 試聴コーナー



教師の授業力向上

- 外部講師を招いての研修・JTEによる講習会
- 授業研究 ・町内3校合同研究 等



3 研究の検証及び改善の手立て

○単元構想の工夫や英語環境の整備により、児童自身が気付きながら基礎的な表現や語彙に慣れ親しむ様子が見られた。日常的やりとりの中で、聞き慣れた英語表現を使おうとする姿も見られるようになり、「英語の力が付いた」と答える児童が増えた。

●教員の授業力向上や校内の環境の整備から、児童の英語への興味関心も高まり不安感も軽減され、よい変容が見られているものの、家庭への啓発が十分でなかったため、日常生活への広がりが十分とは言えない。公開授業や学級便り、学校便り、HP等で定期的に知らせる場を工夫する必要がある。

